

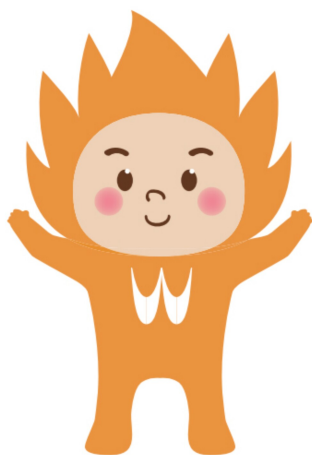
きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第22号
2026年
4月

わけん便り



入職式より

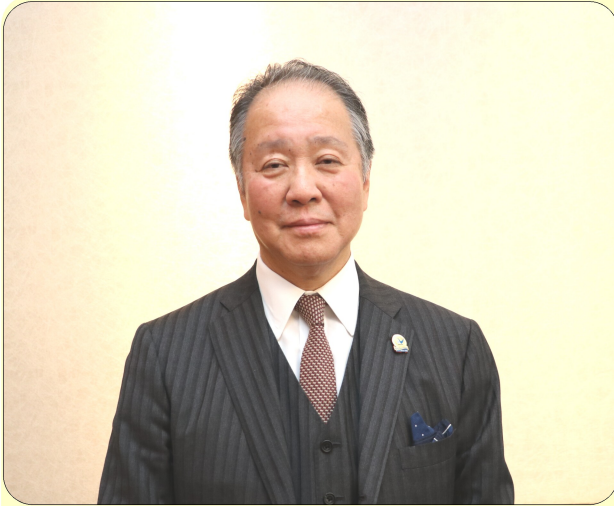


～目次～

- 法人本部立ち上げについて..... 1-4 P
- 法人本部組織図..... 5P



法人本部 立ち上げについて



社会福祉法人ワゲン福祉会

理事長

総合相模更生病院 院長

松本 豊

法人職員の皆様、日々の業務大変お疲れ様でございます。時が経つのは早いもので、私が理事長を拝命してからこの6月末で3年になろうとしております。それ以前にも更生病院病院長、並びに法人事業本部長（執行役員）として月例の経営会議への出席を始め法人運営に参画をしておりました。その間、長きに渡り感じていたことが二点あります。

一点目は、法人全体が各事業所間での連携の機運、機会に乏しかったということです。

二点目は、当法人の財務状況が客観的な裏付けを持って明らかにされる事が、経営会議の場を含め皆無であった点です。

当時の経営監理本部長（執行役員）が当法人の財務状況と経営状況に関して、総じて場当たりの対応に終始をしていたことに起因します。取引銀行（以下、銀行）との折衝についても元経営監理本部長が単身で対応することを常態化させており、ガバナンスの観点からも大いに疑念を抱かざる得ない状況がありました。私共の法人が組織として情報の共有や分析を行い、各々の専門家が法人の舵取りについて議論をする本来のあるべき姿からは大きく逸脱する状況が長らく続いていた訳であります。

法人の健全な運営を目指すのであれば、業績を客観的に評価しそれに基づき何が足りて何が足りないのかを冷静に判断すべきだと思います。我々の進むべき方向を策定しそこに各論としての方法論が肉付けされる必要がありますが、当法人においては長きに渡りその観点がなおざりにされていたと考えます。法人がいかに発展していくかという議論では無く、厳しい表現にはなりますが目の前の資金繰りに対して弥縫策を繰り返すような極めてずさんな運営がまかり通っていました。前理事長並びに私を含めた当時の執行役員の責任は大きいと言わざるを得ません。

（ガバナンス：組織が健全に運営されていくために必要な統治、管理、支配の仕組みや体制の事。法人にとってのコーポレートガバナンスと同義。利害関係者からの信頼を得て法人の健全な運営を行う為に重要な事。）

各事業所の連携については私が病院長就任後、経営会議の場で定例の施設長会議の開催を提案し現在に至っていることは御承知の通りです。法人会計、財務管理につきましては私が理事長就任の後、外部委託業務の内容と体制の変更を行い委託費の削減並びにガバナンスの改善を致しました。同時に経営監理本部長の交代を行い銀行との折衝も担当職員らが対応することと致しました。

その後、2024年の夏より約1年間に渡り財務、会計業務に精通した税理士に経営財務コンサルタントとして更生病院のみならず法人全般に介入をして頂きました。私は有馬妙子総務課長（当時）と共に銀行との折衝等を含めた、財務的観点による組織運営の基礎的な部分について直接御指導を頂きました。

これらの経緯を経て、最終的には財務、経理に関するデータの収集と可視化を内製化することの重要性を理解致しました。つまりコンサルタント会社や外部委託に依らない対外的な折衝をも含めた財務管理とその評価、分析、並びにそこから導き出せる経営戦略、事業計画並びに予算案の策定等を目標とします。給与計算等を含む経理作業部門の充足も含まれます。

（内製化：外部の機関に委託していた業務を組織内の職員や設備を用いて行うこと。）

最終目標は業務の内製化であり、自らが叩き出した数字つまり業績を咀嚼、分析し自分達にとって意味のあるものとして理解出来るようにして行く事。その上で我々が目指すべき具体的な業績目標を明らかにし皆様と共有をしたいと思えます。そうすることにより全職員が同じ方向を向いて努力を重ねる事が可能となり、最終的には得られた成果が全職員の自信や士気の向上に繋がると考えます。この工程を推進し現場が問題無く前進していることを確認するためにも私自身は病院長、理事長として常に現場に在りたいと思っております。

最終的な法人の経営責任は、理事長である私に帰属しますが医経分離体制による経営状況、医療の質と量の向上を目指せるような組織にしていきたいと思えます。

(医経分離:医療提供に責任を持つ部門と、経営統括に責任を持つ部門を分けること。これにより、それぞれが自己の専門性の高い業務に専念できることで病院の価値や医療の質の向上を目指す事が出来る。)

具体的には2025年7月に有馬法人本部事務局長が就任し、法人本部を立ち上げました。構成メンバーとしては、法人内各事業所の現状に精通した施設長クラスの方々を筆頭に有馬事務局長の元に集い業務を遂行しています。又、法人本部財務・経理部門にはそれぞれを専門としている方々にも入職をして頂きました。

法人本部立ち上げにつきましては、責任の所在や根拠があいまいで不透明な方針決定過程や問題点の先送り、非合理的な前例踏襲主義等の根絶をも目的としております。我々の法人のガバナンスを担保する意味でも、当法人の職員はその役割を問わず法人本部で執り行う業務に協力する義務を負うこととなります。勿論、法人の向上を目的とした様々な御意見はいつでも歓迎致します。

2025年6月末に法人役員の改選がありました。理事、評議員、監事、評議員選任解任委員について、我々の法人を理解し応援して下さい相模原市内に主たる活動の拠点を構えている地元の方々に就任をお願い致しました。役員の皆様の御意見や、御提案に真摯に耳を傾けることは、私共の組織が社会福祉法人としてコーポレートガバナンスを重視していることを内外に示す大切な機会であると考えます。

役員の方々を始め地域の皆様や医療介護施設、行政担当の方々との連携や協力体制の構築も法人本部の大切な役割であるという事を申し添えたいと思えます。

終わりに、我々が現在身を置いている医療、介護、福祉分野の苦境については様々な機会にマスコミ等で取り上げられております。しかしながらその困難は私達に与えられた使命に誠心誠意、真摯に向き合い真剣に対応して行くことでしか乗り越えることはできないと確信しております。これは2025年11月に執り行われた更生病院開院80周年の会で、当院を応援して下さい全ての方々の前でお約束をしたことでもあります。

引き続き皆様と力を合わせて、より素晴らしい法人へと成長できますよう理事長として全力を尽くして参ります。



2023年6月から当法人の事業本部長に就任しております七原琢巳でございます。

これまで揺るぎなく着々と成長してきた我が法人ではございますが、これで安泰かといえは必ずしもそうではない現状です。これからの社会福祉法人というものは、職員にとってはお互い気持ちよく働ける職場であり、我々にとっては合理的な利益を得ることのできるものでなければなりません。

しかしもって、現在は未曾有の構造的な不景気、はたまたインフレ状態に日本経済は取り込まれているという状況であります。我々が乗り越えていかなければならない壁は余りにも厚く、かつ高いのであります。

その意味からも、2025年7月に法人本部を立ち上げ、経営改善プロジェクト推進会議を展開していることは、法人にとって非常に有益なことと思うところでございます。

法人本部機能の役割として主なものは、以下になります。

- ・理事会の意思決定に基づき、法人全体の各事業の計画的な進行管理を行う。

- ・収支状況等の経営上の課題や、サービス提供等の事業運営上の課題について、現状だけでなく、起こりうるリスクを含めた具体的な情報を外部や法人内の各事業部門から収集し、分析すること。

- ・その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告、判断を求める。

- ・全施設/事業の経理、総務、人事を集約する。

以上のように、業務が多岐に渡りますので、病院内の各科や各事業所の応援体制が必要になります。それを整備していることも、まことに頼もしい限りです。

私も再び初心に帰り、ともに理解し合い励まし合って、法人の隆盛に向けて努力を重ねたいと考えております。皆様方の温かいご理解ご協力を心からお願い申し上げます。



社会福祉法人ワゲン福祉会
法人事業本部長兼
コンプライアンス統括室長
ワゲンの森八王子 施設長
七原 琢巳



社会福祉法人ワゲン福祉会
法人経営監理本部長兼
法人本部事務局長
有馬 妙子

2025年10月から執行役員（法人経営監理本部長、法人事務局長兼務）として着任し、半年が過ぎ、組織のかたちと方向性が見え始めました。

これまでは本部機能が十分でなく外部に依存する場面が多く、経営の安定や地域からの信頼回復が急務でした。

そこで2025年度初めより地域に根差した信頼回復に注力した結果、11月には総合相模更生病院の80周年式典を盛大に迎え、日々の皆さんの積み重ねが形となって表れたことを大変嬉しく思います。2026年度は更なる業績向上が求められる挑戦の年です。

その実現には、一人ひとりがワゲン福祉会の職員であるという誇りを持ち、自ら考え行動できる職場文化づくりが不可欠です。医療・介護・福祉と幅広いサービスを一体的に提供できる法人の強みを最大限に活かし、合併の真の意義を示す出発点としたいと考えています。具体的には二つの重点施策を掲げます。

- ・第一に、事業拡大で増えた業務量に対応するためDX推進と法人内連携の強化を進め、「質」と「効率」を同時に向上させます。人手不足や財政制約に備え、業務プロセスの見直しとICT活用を徹底します。

- ・第二に「接遇の強化」を図り、地域からさらに信頼され選ばれる法人を目指します。接遇研修や現場の声を反映した改善を継続し、患者・利用者・家族・地域の期待に応えていきます。

当法人は約750名の職員が在籍しています。職員一人ひとりの成長と連携が法人の力になります。

全員が同じ方向を向き、地域に貢献し続けられる組織を共に築いていきましょう。

2026年度 ワゲン福社会 入職式

2026年4月1日、入職式が行われ、衆議院議員の沼崎議員、相模原市長の本村市長、法人理事の高橋理事より心温まるご祝辞を賜りました。

あわせて、神奈川県議会議員の佐々木様をはじめ、7名の議員の皆様、ならびに8名の来賓の方々にご臨席いただき、式典に華を添えていただきました。

また、新入職員を代表して総合相模更生病院看護部の山尾職員より、「法人理念である『和顔愛語』『先意承門』をこれから深く学び、医療・介護・福祉を通じて地域社会に貢献していきたい」との力強い抱負が述べられました。



衆議院議員 沼崎満子 様



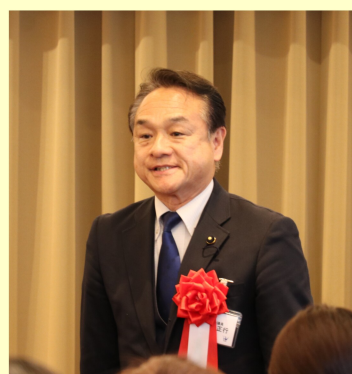
相模原市長 本村賢太郎 様



理事 高橋哲 様



神奈川県議会議員 山口美津夫 様



神奈川県議会議員 佐々木正行 様



神奈川県議会議員 渡部俊明 様



評議員 成川猛 様



理事 松本智映 様



新入職員代表挨拶 山尾結衣奈 様

法人本部 組織図 2026年4月1日より下記の通りとなっております



2026.4.Vol.22

■編集：ワゲン福祉会 広報 ■お問い合わせ先：〒252-5225 神奈川県相模原市中央区小山3429
わけん便りは社会福祉法人ワゲン福祉会で出版されています。